

ロータリー情報研究会 報告書に寄せて

2010-2011 年度 ガバナー 織田吉郎

ロータリー、特に日本のロータリーは今危機に瀕しています。今年度私は職業奉仕をロータリー復興への最枢要委員会と位置づけ、ロータリー固有の奉仕理念を今一度勉強しなおすことを地区活動の柱に据えスタートしました。そして、職業奉仕委員会の中に2つの研修委員会を設け、クラブ研修委員会には分区単位で開催していただくロータリー情報研究会を、職業奉仕研究委員会にはクラブ・フォーラムのサポートをお願いしました。

そしてこの2つの研修委員会をまとめていただく職業奉仕委員長を土屋亮平パストガバナーが受けてくださったことで素晴らしい一年が約束されました。また、クラブ研修委員会を構成する海寶委員長はじめ川名さん、堀内さん、安藤さん、山下さんは真摯にこのプログラムに向き合ってくださいました。委員会内で委員の講演内容のチェックを重ね、事前打合せに各分区まで足を運び、万全の体制を作って本番に臨む周到さは「地区はクラブが綱領を推進するために存在する」という地区活動の王道を示すものでした。

今ここに報告書に目を通させていただく時、よくもこれだけのことをやってのけてくださった、と心に沁みるものがあります。

クラブ公式訪問時にも様々な反応を聞くことができました。ロータリー情報研究会の波紋の広がりには考えていた以上のものです。特にロータリー歴が浅く真面目にロータリーに取り組むきっかけを探していた人々に大きな影響を与えてくださいました。ロータリー活動をしている意味を見つけられずに退会を考えていた会員から「やめなくて良かった、こうした勉強会をクラブ単位で展開してもらいたいし、自分にできることが見つかったような気がする。今後クラブの役に立ってゆきたい。」という話を聞いた時には委員会の皆様のご努力が報われていることを目の当たりにして目頭が熱くなりました。

これまでは、開催することに意味があったようなロータリー情報研究会も多く見受けられましたが、今年の研究会は何処も意義深く地に足のついた研究会であったことを資料から読み取ることができます。

テーマを「私達は何故週一度ロータリーに集うのか」としていただきましたが、それはロータリー活動の「芯」が例会であり、その例会は自己を磨くための「道場」といわれていますが、何のために自己に磨きをかけるのかを今一度確認してほしいからです。

また、双方向の討論をする場合にはなるべくロータリー歴を超えて、多面的に意見を引き出しやすいテーマとするほうが良いというもの、このテーマを選んだ理由でした。

交通費にも足りない少ない委員会予算の中で、まさに手弁当でこのような大変な活動を実施してくださいましたクラブ研修委員会海寶委員長はじめ、4人の委員の皆様にご挨拶を申し上げます。皆様の投げられた一石は地区内に静かに、しかし確かな波紋を広げています。

終わりにあたり職業奉仕委員長をお引き受けくださり2つの研修委員会のご指導をくださいました土屋亮平パストガバナーに衷心より御礼を申し上げます。

当地区ではパストガバナーに地区委員長をお願いすることは一般的なことはありません。しかも地区の大先輩にというのですから受けてくださったこと自体が私にとっては奇跡が起こったような夢の中にいるような思いでした。その上、全ての分区の研究会にご足労くださいました。比較的新しい会員にとって初めて会い温かなお人柄にふれ、初めて直接聞く土屋亮平パストガバナーの正統派のわかりやすいロータリー理論は大きな財産になったことでしょう。

この報告書は2790地区の「今」を切り取った貴重な資料です。これらの情報が各クラブで再度波紋を広げていってくださることを願っています。

参加をされた全ての会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

2011-2-1